

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

■ 1 桂離宮からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・桂離宮は周囲を高木に囲まれており、敷地内からは周囲の建築物等はほとんど見えない。
- ・笑意軒南側の電柱や民家などが木々の間からわずかに視認される。



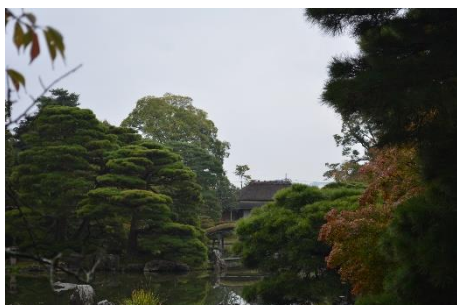
1-1 御幸道から東への眺望
：桂川方面には敷地内の高木が見える。



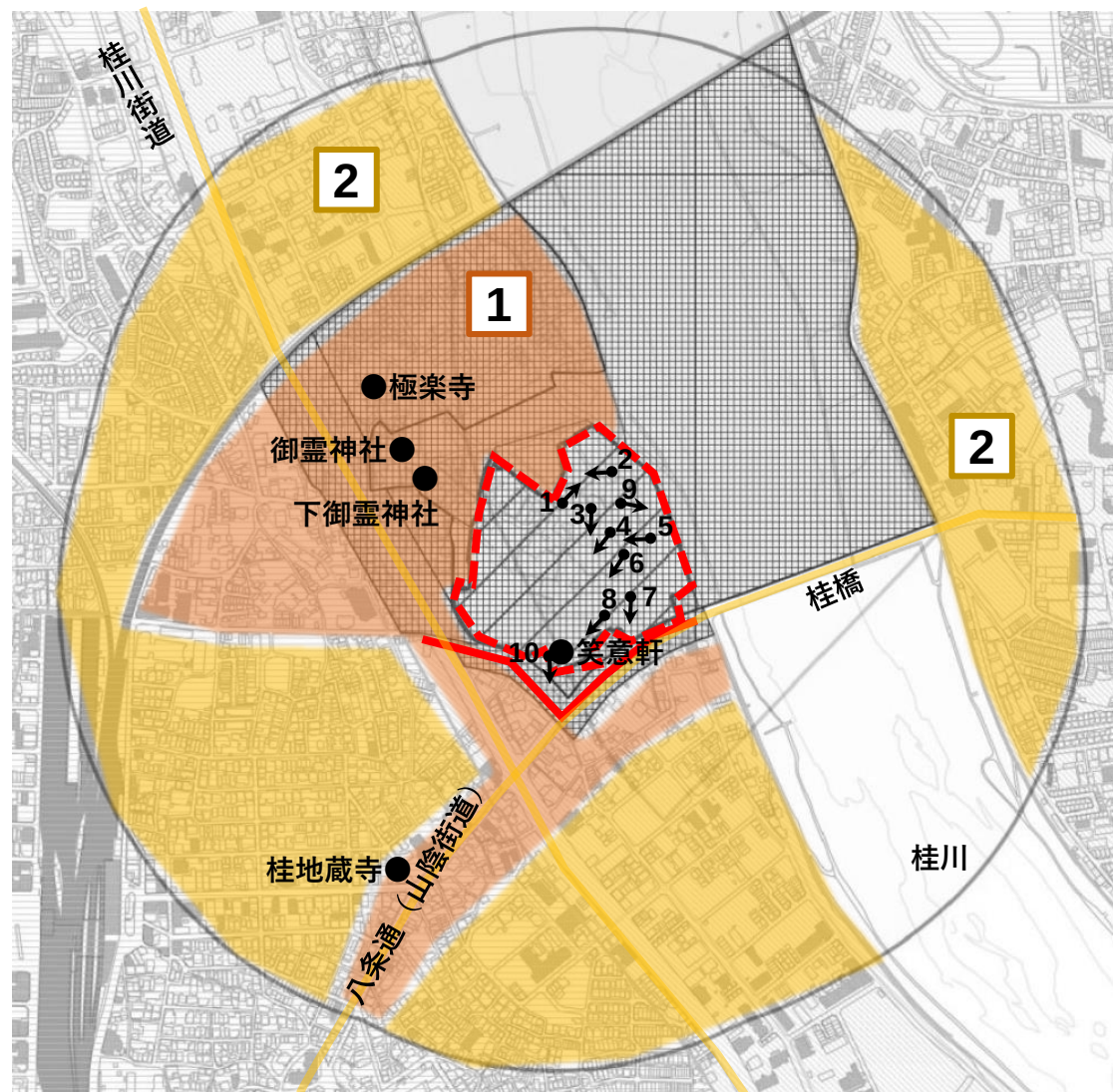
1-2 御幸門から東（桂垣）への眺望
：桂垣上部が見える。



1-3 蘇鉄山の西から南東（八条通り）への眺望
：周辺の建築物は視認されない。



1-4 蘇鉄山の南から南西への眺望
：笑意軒の屋根の上に電柱が見える。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



1-5 池東北から西への眺望
：遠く西山が遠望できる。



1-6 松琴亭北側から西への眺望
：遠く西山が遠望できる。



1-7 池南から南西（桂駅）への眺望
：樹木の隙間から桂駅前の建築物が遠望できる。



1-8 賞花亭東から笑意軒方向への眺望
：樹林の隙間から敷地南側の住宅が垣間見える。



1-9 蘇鉄山の東から南東への眺望
：建築物等は見えない。



1-10 笑意軒内窓から南への眺望
：住宅が垣間見える。

■ 2 桂離宮周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・ 八条通は山陰街道としての歴史もあり、街道沿いの町家等と新しい住宅とが混在している。
- ・ 桂川街道は山陰街道と交差する片側2車線の幹線道路。両側にはマンション等の中層建築物も多い。
- ・ 桂川沿いには、高層のマンションが立ち並ぶところがある。



2-1 桂駅ロータリーから東への眺望
：中高層建築物が立ち並ぶ。



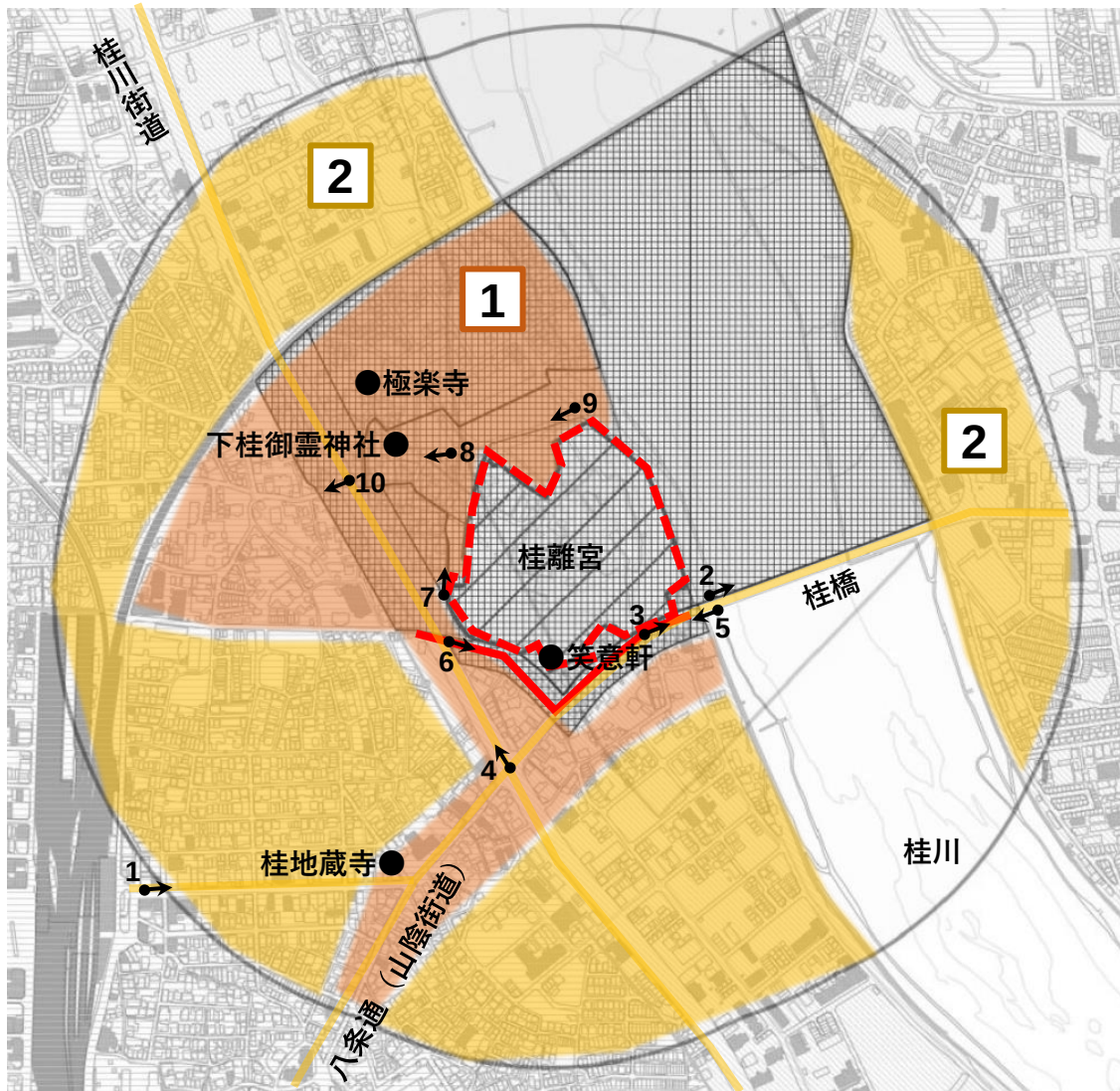
2-2 桂橋から桂川左岸への眺望
：高層のマンションが立ち並ぶ。



2-3 山陰街道から北東への眺望
：離宮の森を近くに感じる。
沿道には京町家も残る。



2-4 桂川街道から北への眺望
：桂川街道沿いの建築物は新しいものが目立つ。



 視点場（境内）
 —— 視点場（参道等）
 —— 主な通り



2-5 桂橋から離宮への眺望
：角の建築物越しに離宮の緑が見える。



2-6 離宮南側から東への眺望
：離宮の緑が沿道景観に特徴を与えている。



2-7 視点場西側の田畑
：道路と視点場の間には、田畑が広がる。



2-8 下桂御霊神社
：下桂御霊神社の周囲には農家住宅が多く残る。



2-9 視点場北側から西への眺望
：左手が離宮。手入れされた樹木が美しい。



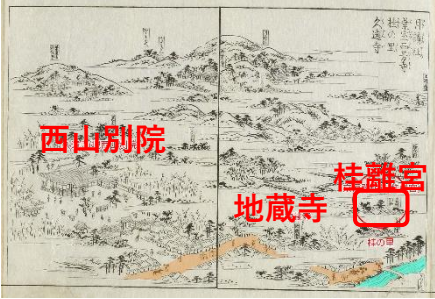
2-10 中桂の交差点から西への眺望
：桂川街道より西側の住宅地へと続く。

■ 3 桂離宮周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 桂離宮周辺

ア エリアの歴史等	・ 本地域の東部から西南部に山陰街道が通じており、京都－西国間の交通の要衝であった。天正14年(1586)丹波材集積の筏宿が置かれ、上流の嵯峨・梅津と並び材木問屋が集住し「桂組」と呼ばれた。 ・ 「都名所図会」には、地藏寺のほか、「京極殿別荘(桂離宮)」「桂の里(旧下桂村)」「久遠寺(現西山別院)」が山陰街道を行き交う人々と共に描かれており、江戸期の本地域の様子がわかる(図3-1)。 ・ 昭和3年(1928)に現阪急電鉄京都本線と嵐山線が開業し、桂駅が新設された。	
イ 町並みの特徴	・ 下桂は近世桂宮家領であり、桂川以西では大村で越瓜(桂瓜)、飴、茶などが生産されていた。 ・ 旧集落にあたる離宮近傍は、低層の町並みが広がっている。古くからの道や農家風住宅が残り、歴史的な町並みが残るところもある。 ・ 山陰街道は京と丹波を結ぶ旧街道で、今なお往来が盛んである。山陰街道沿いには農家風住宅や京町家も見られ、離宮の緑と一体的な景観を形成している。 ・ 桂川街道は、この地域の主要な幹線道路であり、道幅も広く沿道には、比較的新しい建築物が立ち並ぶ。阪急京都線をアンダーパスしており、桂離宮周辺の風景に影響を与えないようになっている。 文化財等：極楽寺庭園(名勝)、中村軒	
ウ 景観形成方針	風致地区	桂離宮特別修景地域
	離宮の大きな森が、川幅の大きい桂川ののびやかな空間と一体となった風景の維持を図る。また山陰街道沿いや離宮周辺の伝統的な和風感の保全を図る。	桂離宮周辺の住宅地では、離宮の緑豊かな景観を保全する。
エ 建築計画等に求める配慮事項	離宮周辺は、高さ規制や和風デザイン等による離宮庭園からの借景の確保を図るとともに、山陰街道沿いは、旧街道の趣との調和に配慮する。	
	建築物は、原則として日本瓦ぶき和風外観とする。	

参考写真等



3-1 「都名所図会」安永9年(1780)より「桂の里」



3-2 山陰街道



3-3 桂離宮北側の農家風住宅が並ぶ町並み



3-4 桂川街道

2 新興住宅地

ア エリアの歴史等	・ 平安末期から戦国期にかけて下桂荘と呼ばれる荘園であったとされ、多くの史料に「下桂」の地名が散見する。地域の東部から西南部に山陰街道が通じており、京都－西国間の交通の要衝であった。桂川は昼夜就航の「桂の渡し」で結ばれており、対岸の一部も旧下桂村に帰属していた(図3-5)。天明2年(1782)に旧下桂村の有力商人らが桂川から淀川を経て大阪方面を結ぶ水上運送業を始めたとされる。 ・ 明治元年(1868)京都府に所属、同14年(1881)に牛ヶ瀬村・川島村・下津林村と連合し本村に戸長役場を開設した。 ・ 明治38年(1905)桂川に近代的な大橋が架橋されて、渡し場も無くなった。昭和期に入り、土地の区画整理や桂川街道などの新道の築造、現阪急電鉄京都本線の開業などで本地域の環境は著しく変化し、市街化された。	
イ 町並みの特徴	・ 阪急桂駅周辺、山陰街道以南、阪急京都線以北のエリアは以前は田畑ばかりであったが、現在は新興住宅地として多くの住宅が建ち並んでいる。 ・ 桂駅周辺の住宅地は昭和3年に新京阪電鉄(現阪急電鉄)が設置されたのを契機に、市街地化が急速にすすんだ。その当時の面影も色濃く残っている。 ・ 桂離宮に近い場所では、離宮の大きな森を見ることができ、この地域の重要な景観資源となっている。桂川右岸から見ると桂垣とともに高樹に囲まれた離宮を見ることができる。 ・ 桂川左岸は、川沿いに大規模なマンションが立地しており、右岸側からも視認できる。	
ウ 景観形成方針	岸辺型建造物修景地区	山並み背景型建造物修景地区
	桂川河川敷からは、広がりのある眺望景観を楽しむことができる。また歴史的資産が周辺の地域の景観に特徴を与えている。	桂川右岸は、身近に西山を眺望できる良好な住宅地である。
エ 建築計画等に求める配慮事項	建築物は、河川敷からの眺望を阻害することがないように、屋上景観を整え、壁面に暖色系の自然素材色等を使用し、自然景観との調和を図る。歴史的資産に配慮した町並み景観の保全、創出を図る。	
	建築物は、勾配屋根を設けることによりまとまりのある屋上景観を形成し、また壁面の色彩に配慮し、道路など公共のように供する空地側には、門扉、塀、生垣等を設けることにより落ち着いた町並み景観を創出する。	

参考写真等



3-5 「拾遺都名所図会」天明7年(1787)より「桂川の渡し」



3-6 桂川街道から南をのぞむ



3-7 桂駅前から東をのぞむ



3-8 桂川右岸から左岸のマンション群をのぞむ

3-1 「元禄九年京都大絵図」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-5 「京都市全圖」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-9 「京都市都市計畫道路圖」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）
3-13 「京都府京都市西陣局郵便区市内図」国際日本文化研究センター（<http://www.nichibun.ac.jp>）